









狂伯爵（十三）

海渡遠く旅にしあれば故里の  
書信に聞く卯の花便り  
五月雨の窓にもたれて南國を  
思に入りしと汝は書きけるよ  
かばかりに戀にやつれし身なれ我  
父をばよばむ母をもよばめ  
○野邊の冬 東京殖民地上田生  
未しなき野邊の千草の霜のかれて  
ほろほろごなく蟲の音淋し  
石き身の思になやみ野に立てば  
きぬ裂く如きペリキットの聲  
口笛を吹く男の横顔  
愛しきや花を尋ねて只一人  
野邊にさまよう冬の夕暮  
夕されば親にかくれて文を書く  
悲しき胸に蟲の聲さく  
○我が家 天下の浪人  
岩かけに清水流るゝ僕の宿  
いく夜君等の夢に入りぬる  
○悲し同フシ  
停車場の窓にもたれて悲しげに  
口笛を吹く男の横顔  
愛しきや花を尋ねて只一人  
野邊にさまよう冬の夕暮  
夕されば親にかくれて文を書く  
悲しき胸に蟲の聲さく  
鹿児島縣姶良郡西國分村大字  
住吉八九  
家長弟 新一  
耕石家族は前記バタ、エヌクアアンゴ  
耕地に於て三ヶ年契約を以て就勤す  
去月二十二日同耕地逃亡に際し不都合  
御合承知の向は匿ひても差支なくて  
急當館に通知ありたり  
何分の御負担の程を伏して御願ひ  
します  
○おづれうきぐさ生  
来ぬと故郷の吾が弟の交寄せぬ  
眞白に霜の庭に置きし日  
平かれと愛の女神の道きに  
弟は嫁しぬ愛しき人ぞ

肥  
料

# Y. SEGUI

新到着

△△農產物仲買及委託  
神田醬油取次店

△△行賣の位本質品

飛やうなうふこ

瀨木商店

記念が下旨 諸君方月生地

# ADUBOS FORTUNA

J. B. DUARTE

Usinas de Productos Chimicos de Cubatão

Rua Boa Vista, 21—S. Paulo

**▲Adubos Fortuna** の効力は、當店では各種の耕作肥料を製造します。殊にジャガ芋の塊根を充分に發達させ、收穫を殖やす特別調合肥料を販賣します。

▲C印施肥せた土地の珈琲園に。▲CR印珈琲樹の植へ易へに。▲H印菜園に土と交へて。▲AR印清掃の効果最も優秀なる

▲C印珈琲園の間作に。▲CV老珈琲樹に。▲CA印カンナ耕作に。▲M印ミリョ耕作に。▲V印南瓜作に。▲A印各種果樹に。▲J印花園に數日前に土を交いて。▲AL印綿耕作に。▲B印ジャガ芋類に

▲カラバート類。▲疥癬。▲ベル子。▲ビシェイラ。▲アロ等を退治するに妙。

**J. B. DUARTE**

宛に葡文若しくは日本文で直接御問ひ合はせ下さい。

Rua da Boa Vista, No. 21 S. Paulo

## 今様曲垣平九郎 馬の上で夢を見ながら馳せる

日本近信

攝政宮台臨の下に

遊佐少佐の名馬術

元帥宮、久遠中將宮、王世子殿の下に

三殿を初め上原元帥、斯波内山

兩大將、大庭教育總監、清浦樞府議

長、伊藤主馬頭の數氏であつた定刻

遊佐少佐の妙技を先んじ藤田大尉、

山本大尉、城戸大尉の馬術ありて後

愈々少佐は日頃愛乗した峰駒號を引

き出し殆んど手綱を用ひず三本駢足

バツサージ等の妙技を御覧に入れ、

最後には乗馬のまゝ殿前の前に参進

馬の片足を折り

最敬禮を申し上げ又金林號を單獨

にし馬場内に放ち障害物の飛躍を御

覧に入れたが最高二米突の日本に於

けるレコードを造つて終りを告げた

この日殿下には終始御興深く御覧

らせられ一同に茶菓の饗應あり午後

二時十分御機嫌麗はしく御還啓あら

せられた當日最もも攝政殿以下の御前

に於て高等馬術の妙技を台覧に供し

た陸軍騎兵少佐遊佐孝平氏は世界的

名馬術家としてその

▼聲名を海外にまで馳てるる「馬術

の要諦は人馬一體の境地に在るので

昔の大坪流も現在の獨逸馬術佛蘭西

馬術も其の境地に進む筋道こそ違つ

てゐてもその歸するところは同様で

軍の馬術は學理と自然を折衷したや

うに出來てゐる、馬を最も巧に乘廻す事は矢張何と云つても米國のカウ

ボーイ達や南米のガウショ、露國の

コザック等でこれは

問題でなく馬術としては獨佛にあ

る」と少佐獨特の乗馬物語は實に古

今を通じて聞いてゐてさへ馬に乗つた程痛快を叫びたくなる「種々乗馬

の光榮といふべきである

た重ね重

手でやつてゐたが土地の善惡によつ

る

た

あらせられた

学校教官遊佐孝平少佐の馬術を台覧

ながら驕けた事もあつた、苦心した

時は又それ丈に餘伏も伴ふ譯さ

水馬は昔は阿部勝後守の隅田川乘切

りで講談や浪花節等々に唱へられて

ある何の五萬石朝飯前にやつける

と大きい、然し

中將の令息強盜

東京電報、北米通信

豫備海軍中將伊地知季珍氏令息重徳

は強盜の嫌疑にて逮捕され取調を受

新派劇の檀の浦

愈々解體四分五裂

今日迄命脈を保つて來たが、時代の

争となつた譯である

言から「清水次郎長」と石松殺しから

仲渡と共に目覺めて來た部下の若手

幹部の反撃にあつてはござること井はしばらく休養して日和を見る

多村が傳統的な勢力を以て兎も角も

即ち端なくも喜多村二派との競

争となつた譯である

言から「清水次郎長」と石松殺しから

仲渡と共に目覺めて來た部下の若手

## 雨天續さや労力不足で 遅れる今年の珈琲收穫終期

蓄や花もむしられて  
來年は大減收の見込

目下その最中にある州内各地の珈琲  
收穫状況は、例年に比して二十日乃至三十日遅れる。一般に見做されてゐるが、之には種々な原因があるが、先づその主なものは收穫開始前各耕地の落葉珈琲果粒捕寄せ其他の諸準備作業が打ち續いた雨天で手遅れになつた所へ、今年が夥しいので更に作業の障礙となり

### 故米國大統領の追悼會

北米合衆國二十八次大統領のワーレン・ハーディング氏は旅行中病氣に罹りサンフランシスコに於て長逝せられた事は既に前號に報道せる如くであるが、一國の元首として偉大なる人格者としての同氏を追慕せんが爲めサンバウロに於ても米國領事の主人翁会を營む事となつた、固より追慕の主旨から其處に別段制限を置かざるが故定めし參會者は多からう

普通なら五月から始まつて九月に收穫の終期となるのが常だが、今年はとても終る様はなく、もし今月及九月に雨が降れば、既に三月頃落ち始めた珈琲は長い間厚く積つた落葉の中埋まつて品質を損じ、價額の低下を來すは當然となる。其外收穫時期が遅れるので折角い時に積み入れた二百八十萬袋も珈琲園内に積まれてあり

腐敗する懼がある、各地から的情報によると、今年の損害は初期に思つた以上だといつてゐる。そこへもつて来て澤山實つた年の翌年はあまり實らないのが常だから、

輸送することを決し又は旅費を支給してやればリヴァルノ港から多數の勞働者を伯國へ送る事が出来る。

伯國を故國へ宣傳に

海外興業會社で

當市海外興業會社支店では伯國事情

母國へ廣く宣傳する爲め先年來或は

珈琲調査を兼ね今度計畫の『聖州北

大損害を受け、來年の出来はマダラ

だらうと思はれてゐる、それに收穫

終期が遅れるので摘採の爲に雷や或

は既に咲出した花のむしりとられて

犠牲になるのも少くはあるま

日本は又聖市内や

ニーマス耕地及び珈琲耕地勞働契約

完了後リオグランデ流域

電報に見へたが同船のリオ着は十六

日の豫定だ

一百ミルのお札

發行前造幣局で盜まる

過日造幣局でまた發行手續未了の二

百ミル紙幣若干窃取され密かに行使されてゐる。云ふ形勢があるので關係官廳へ移譲して注意したが該紙幣は赤色刷のエスタンバードで正式に發行流通してゐるのはトマソニセリ

ドードードリオへ向け出發したと紐

州活潑監察官カンボス技師と共にリ

オへ出張し同市の中心部や海岸通及

有名な同地自然美の一班をフィルム

に收めた何れも近く

家族の生活實況を活潑に撮り先月東京へ回送したが何れも成績がいいの

で今度は先週同社の山田明穂兩氏は

オへ出張し同市の中心部や海岸通及

有名な同地自然美の一班をフィルム

ミカドの茶話會

神戸駐在伯國領事

時半から二三緊急會議を兼ねて

茶話會を催す

伯國綿の見本を

日本へ送れ

ミカドの茶話會

神戸駐在伯國領事

時半から二三緊急會議を兼ねて

茶話會を催す

伯國綿の見本を

日本へ送れ

ミカドの茶話會

神戸駐在伯國領事

時半から二三緊急會議を兼ねて

茶話會を催す

伯國綿の見本を

日本へ送れ

尋人松限治市郎

福岡縣人

右の者の現住所御存知の方は甚だ御迷惑なれど小生宛御一報願上候

陳者小生儀今般家事の都合上近日當港出帆のハマ丸にて一時歸國仕事の見せしめに断乎たる制裁を加へや

一、未来ある北西部地帶は吾等の爲めに残された唯一の活躍舞臺あります此活氣ある北西地帶を通じて伯國を故國に紹介し併せて同州北西年鑑の出版を思ひ立ました。

一、材料蒐集の爲め二ヶ月半の豫定

（送料共）豫約申込十月二十日迄

一、北西部地方の同胞住所姓名錄を附録

一、明年一月一日發行、定價五ミル

（送料共）豫約申込十月二十日迄

一、北西部地方の同胞住所姓名錄を附録

尋人松限治市郎

福岡縣人

右の者の現住所御存知の方は甚だ御迷惑なれど小生宛御一報願上候

陳者小生儀今般家事の都合上近日當港出帆のハマ丸にて一時歸國仕事の見せしめに断乎たる制裁を加へや

一、未来ある北西部地帶は吾等の爲めに残された唯一の活躍舞臺あります此活氣ある北西地帶を通じて伯國を故國に紹介し併せて同州北西年鑑の出版を思ひ立ました。

一、材料蒐集の爲め二ヶ月半の豫定

（送料共）豫約申込十月二十日迄

一、北西部地方の同胞住所姓名錄を附録

一、明年一月一日發行、定價五ミル

（送料共）豫約申込十月二十日迄

一、北西部地方の同胞住所姓名錄を附録

尋人松限治市郎

福岡縣人

右の者の現住所御存知の方は甚だ御迷惑なれど小生宛御一報願上候

陳者小生儀今般家事の都合上近日當港出帆のハマ丸にて一時歸國仕事の見せしめに断乎たる制裁を加へや

一、未来ある北西部地帶は吾等の爲めに残された唯一の活躍舞臺あります此活氣ある北西地帶を通じて伯國を故國に紹介し併せて同州北西年鑑の出版を思ひ立ました。

一、材料蒐集の爲め二ヶ月半の豫定

（送料共）豫約申込十月二十日迄

一、北西部地方の同胞住所姓名錄を附録

一、明年一月一日發行、定價五ミル

（送料共）

# 大石内藏之助

半井桃木

是、淺野安政の家来津田藤五郎を伴うて、梅林庵に訪れた。内蔵の助は客室に請じて三人に對面した。

「珍らしや津田氏、いつ當地へはお越で御座つた」

「捕者は病氣養生の爲め、暫しのお暇を申乞ひ、昨日到着致しましたが承はれば遠からず、江戸へお立と申す事、夫に付き、ちと御意得たい儀が御座つて、近藤小山御所と申合はせ、今晚推參致しました」といふ尾に付いて近藤小山も、交るぐく口を開いた。

「此の程寺井支溪をもつて、我々の思意申入れました處、思召に叶はずお取上げ下されぬとの事、一應お目に掛り、親しく御相談申したいと存する折から、恰と津田氏の御上京」

事必定大學様お身の上に、喜ばしい儀があらうござりんの時とやら」

「されば失れまでの處、江戸下向を見合さるゝが宜しからうと存じ申す」

『既に令息御出府の上は、一月や半月を争ふにも及ばぬ時、尙委し儀件の一つであるが爰に注意を要するは、日本語を教ゆること云ふことは重要な文字を教ゆること云ふことは全然那の文字を弱い児童の頭腦に詰め込む必要があるう、本には日本固有の優秀便利な五十音アルベットがある以上、何を苦ん那の文字を教ゆること云ふことである。日本では幾千種難解の支那文字を弱い児童の頭脳に詰め込む必要があるう、これまで多少教育された日本人は新開位づらく讀める等とされて居る先づ教育を受けた時間から言つても

婦人標

婦人欄

日本女は否<sup>キヨシ</sup>つむりを豊<sup>ヨコ</sup>にふり(下)子

◆伯國<sup>ボーグ</sup>の女などは謂<sup>ハシム</sup>る世界<sup>ノ</sup>の田舎<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>の目も映<sup>ハシム</sup>き街頭<sup>ノ</sup>の燈下<sup>ノ</sup>に毎夜<sup>ノ</sup>育<sup>ハシム</sup>や巴里<sup>ノ</sup>に居<sup>ハシム</sup>つて華美<sup>ノ</sup>の風俗<sup>ノ</sup>に馴<sup>ハシム</sup>れつべだと云ふ人もあり<sup>ス</sup>、殊<sup>ニ</sup>紐<sup>ノ</sup>時間<sup>立</sup>ち通<sup>ハシム</sup>して語り合<sup>ハシム</sup>ふなどは、云ふものは色<sup>が</sup>白くてお化粧<sup>が</sup>上手<sup>。</sup>◆然し戀<sup>ハシム</sup>は真正<sup>モ</sup>であり、結婚<sup>ハシム</sup>は一<sup>モ</sup>だ<sup>モ</sup>云ふだけでは、未だ其の全體<sup>ノ</sup>をの大事<sup>ハシム</sup>である云<sup>ハシム</sup>へば、伯國<sup>人の</sup>の盡<sup>ハシム</sup>したものとは言<sup>ハシム</sup>へません、固<sup>ニ</sup>年間も語り合<sup>ハシム</sup>ふか<sup>モ</sup>て來<sup>ハシム</sup>た人はさう申<sup>ハシム</sup>します、然し美<sup>と</sup>慢<sup>し</sup>切<sup>れ</sup>ないものであります。云ふものは色<sup>が</sup>白くてお化粧<sup>が</sup>上手<sup>。</sup>◆然し戀<sup>ハシム</sup>は真正<sup>モ</sup>であり、結婚<sup>ハシム</sup>は一<sup>モ</sup>だ<sup>モ</sup>云ふだけでは、未だ其の全體<sup>ノ</sup>をの大事<sup>ハシム</sup>である云<sup>ハシム</sup>へば、伯國<sup>人の</sup>の盡<sup>ハシム</sup>したものとは言<sup>ハシム</sup>へません、固<sup>ニ</sup>年間も語り合<sup>ハシム</sup>ふか<sup>モ</sup>て來<sup>ハシム</sup>た人はさう申<sup>ハシム</sup>します、然し美<sup>と</sup>慢<sup>し</sup>切<sup>れ</sup>ないものであります。云ふものは色<sup>が</sup>白くてお化粧<sup>が</sup>上手<sup>。</sup>◆然し戀<sup>ハシム</sup>は真正<sup>モ</sup>であり、結婚<sup>ハシム</sup>は一<sup>モ</sup>だ<sup>モ</sup>云ふだけでは、未だ其の全體<sup>ノ</sup>をの大事<sup>ハシム</sup>である云<sup>ハシム</sup>へば、伯國<sup>人の</sup>の盡<sup>ハシム</sup>したものとは言<sup>ハシム</sup>へません、固<sup>ニ</sup>年間も語り合<sup>ハシム</sup>ふか<sup>モ</sup>て來<sup>ハシム</sup>た人はさう申<sup>ハシム</sup>します、然し美<sup>と</sup>慢<sup>し</sup>切<sup>れ</sup>ないものであります。云ふものは色<sup>が</sup>白くてお化粧<sup>が</sup>上手<sup>。</sup>◆然し戀<sup>ハシム</sup>は真正<sup>モ</sup>であり、結婚<sup>ハシム</sup>は一<sup>モ</sup>だ<sup>モ</sup>云ふだけでは、未だ其の全體<sup>ノ</sup>をの大事<sup>ハシム</sup>である云<sup>ハシム</sup>へば、伯國<sup>人の</sup>の盡<sup>ハシム</sup>したものとは言<sup>ハシム</sup>へません、固<sup>ニ</sup>年間も語り合<sup>ハシム</sup>ふか<sup>モ</sup>て來<sup>ハシム</sup>た人はさう申<sup>ハシム</sup>します、然し美<sup>と</sup>慢<sup>し</sup>切<sup>れ</sup>ないものであります。云ふものは色<sup>が</sup>白くてお化粧<sup>が</sup>上手<sup>。</sup>◆然し戀<sup>ハシム</sup>は真正<sup>モ</sup>であり、結婚<sup>ハシム</sup>は一<sup>モ</sup>だ<sup>モ</sup>云ふだけでは、未だ其の全體<sup>ノ</sup>をの大事<sup>ハシム</sup>である云<sup>ハシム</sup>へば、伯國<sup>人の</sup>の盡<sup>ハシム</sup>したものとは言<sup>ハシム</sup>へません、固<sup>ニ</sup>年間も語り合<sup>ハシム</sup>ふか<sup>モ</sup>て來<sup>ハシム</sup>た人はさう申<sup>ハシム</sup>します、然し美<sup>と</sup>慢<sup>し</sup>切<sup>れ</sup>ないものであります。云ふものは色<sup>が</sup>白くてお化粧<sup>が</sup>上手<sup>。</sup>◆然し戀<sup>ハシム</sup>は真正<sup>モ</sup>であり、結婚<sup>ハシム</sup>は一<sup>モ</sup>だ<sup>モ</sup>云ふだけでは、未だ其の全體<sup>ノ</sup>をの大事<sup>ハシム</sup>である云<sup>ハシム</sup>へば、伯國<sup>人の</sup>の盡<sup>ハシム</sup>したものとは言<sup>ハシム</sup>へません、固<sup>ニ</sup>年間も語り合<sup>ハシム</sup>ふか<sup>モ</sup>て來<sup>ハシム</sup>た人はさう申<sup>ハシム</sup>します、然し美<sup>と</sup>慢<sup>し</sup>切<sup>れ</sup>ないものであります。云ふものは色<sup>が</sup>白くてお化粧<sup>が</sup>上手<sup>。</sup>◆然し戀<sup>ハシム</sup>は真正<sup>モ</sup>であり、結婚<sup>ハシム</sup>は一<sup>モ</sup>だ<sup>モ</sup>云ふだけでは、未だ其の全體<sup>ノ</sup>をの大事<sup>ハシム</sup>である云<sup>ハシム</sup>へば、伯國<sup>人の</sup>の盡<sup>ハシム</sup>したものとは言<sup>ハシム</sup>へません、固<sup>ニ</sup>年間も語り合<sup>ハシム</sup>ふか<sup>モ</sup>て來<sup>ハシム</sup>た人はさう申<sup>ハシム</sup>します、然し美<sup>と</sup>慢<sup>し</sup>切<sup>れ</sup>ないものであります。云ふものは色<sup>が</sup>白くてお化粧<sup>が</sup>上手<sup>。</sup>◆然し戀<sup>ハシム</sup>は真正<sup>モ</sup>であり、結婚<sup>ハシム</sup>は一<sup>モ</sup>だ<sup>モ</sup>云ふだけでは、未だ其の全體<sup>ノ</sup>をの大事<sup>ハシム</sup>である云<sup>ハシム</sup>へば、伯國<sup>人の</sup>の盡<sup>ハシム</sup>したものとは言<sup>ハシム</sup>へません、固<sup>ニ</sup>年間も語り合<sup>ハシム</sup>ふか<sup>モ</sup>て來<sup>ハシム</sup>た人はさう申<sup>ハシム</sup>します、然し美<sup>と</sup>慢<sup>し</sup>切<sup>れ</sup>ないものであります。云ふものは色<sup>が</sup>白くてお化粧<sup>が</sup>上手<sup>。</sup>◆然し戀<sup>ハシム</sup>は真正<sup>モ</sup>であり、結婚<sup>ハシム</sup>は一<sup>モ</sup>だ<sup>モ</sup>云ふだけでは、未だ其の全體<sup>ノ</sup>をの大事<sup>ハシム</sup>である云<sup>ハシム</sup>へば、伯國<sup>人の</sup>の盡<sup>ハシム</sup>したものとは言<sup>ハシム</sup>へません、固<sup>ニ</sup>年間も語り合<sup>ハシム</sup>ふか<sup>モ</sup>て來<sup>ハシム</sup>た人はさう申<sup>ハシム</sup>します、然し美<sup>と</sup>慢<sup>し</sup>切<sup>れ</sup>ないものであります。云ふものは色<sup>が</sup>白くてお化粧<sup>が</sup>上手<sup>。</sup>◆然し戀<sup>ハシム</sup>は真正<sup>モ</sup>であり、結婚<sup>ハシム</sup>は一<sup>モ</sup>だ<sup>モ</sup>云ふだけでは、未だ其の全體<sup>ノ</sup>をの大事<sup>ハシム</sup>である云<sup>ハシム</sup>へば、伯國<sup>人の</sup>の盡<sup>ハシム</sup>したものとは言<sup>ハシム</sup>へません、固<sup>ニ</sup>年間も語り合<sup>ハシム</sup>ふか<sup>モ</sup>て來<sup>ハシム</sup>た人はさう申<sup>ハシム</sup>します、然し美<sup>と</sup>慢<sup>し</sup>切<sup>れ</sup>ないものであります。云ふものは色<sup>が</sup>白くてお化粧<sup>が</sup>上手<sup>。</sup>◆然し戀<sup>ハシム</sup>は真正<sup>モ</sup>であり、結婚<sup>ハシム</sup>は一<sup>モ</sup>だ<sup>モ</sup>云ふだけでは、未だ其の全體<sup>ノ</sup>をの大事<sup>ハシム</sup>である云<sup>ハシム</sup>へば、伯國<sup>人の</sup>の盡<sup>ハシム</sup>したものとは言<sup>ハシム</sup>へません、固<sup>ニ</sup>年間も語り合<sup>ハシム</sup>ふか<sup>モ</sup>て來<sup>ハシム</sup>た人はさう申<sup>ハシム</sup>します、然し美<sup>と</sup>慢<sup>し</sup>切<sup>れ</sup>ないものであります。云ふものは色<sup>が</sup>白くてお化粧<sup>が</sup>上手<sup>。</sup>◆然し戀<sup>ハシム</sup>は真正<sup>モ</sup>であり、結婚<sup>ハシム</sup>は一<sup>モ</sup>だ<sup>モ</sup>云ふだけでは、未だ其の全體<sup>ノ</sup>をの大事<sup>ハシム</sup>である云<sup>ハシム</sup>へば、伯國<sup>人の</sup>の盡<sup>ハシム</sup>したものとは言<sup>ハシム</sup>へません、固<sup>ニ</sup>年間も語り合<sup>ハシム</sup>ふか<sup>モ</sup>て來<sup>ハシム</sup>た人はさう申<sup>ハシム</sup>します、然し美<sup>と</sup>慢<sup>し</sup>切<sup>れ</sup>ないものであります。云ふものは色<sup>が</sup>白くてお化粧<sup>が</sup>上手<sup>。</sup>◆然し戀<sup>ハシム</sup>は真正<sup>モ</sup>であり、結婚<sup>ハシム</sup>は一<sup>モ</sup>だ<sup>モ</sup>云ふだけでは、未だ其の全體<sup>ノ</sup>をの大事<sup>ハシム</sup>である云<sup>ハシム</sup>へば、伯國<sup>人の</sup>の盡<sup>ハシム</sup>のものが幾人ある<sup>ハシム</sup>だらう? 論語讀み得<sup>ハシム</sup>た文字を今度<sup>ス</sup>すら<sup>ス</sup>書き得<sup>ハシム</sup>る人が幾人ある<sup>ハシム</sup>だらう? 論語讀み盛ん<sup>ハシム</sup>な文明國<sup>ノ</sup>と稱せられて居<sup>ハシム</sup>るが、その論語知らず所<sup>ノ</sup>の騒ぎではない、文字讀み得<sup>ハシム</sup>た文字を完全<sup>ス</sup>に教<sup>ハシム</sup>る<sup>ハシム</sup>と同時に其教系<sup>ノ</sup>の大きな考<sup>ハシム</sup>へ違ひがあることを<sup>ハシム</sup>遺憾なく記録し得<sup>ハシム</sup>る、やう<sup>モ</sup>教育<sup>ハシム</sup>しなければ如<sup>モ</sup>く思<sup>ハシム</sup>つて來<sup>ハシム</sup>た、從<sup>ハシム</sup>つて世<sup>ノ</sup>に學<sup>ハシム</sup>者<sup>ノ</sup>が澤山<sup>ノ</sup>に詰<sup>ハシム</sup>む事<sup>である</sup>か<sup>モ</sup>か<sup>モ</sup>知<sup>ハシム</sup>る<sup>ハシム</sup>難解<sup>ノ</sup>の支那文字<sup>ノ</sup>を成<sup>ハシム</sup>るべく澤山<sup>ノ</sup>の學問教育<sup>ノ</sup>を受ける<sup>ハシム</sup>と云ふ事<sup>である</sup>が、それで居<sup>ハシム</sup>たこの位學問教育<sup>ノ</sup>の價値<sup>ノ</sup>は、身を委<sup>ハシム</sup>ねて來<sup>ハシム</sup>たものであるから、それから追々<sup>ス</sup>其の所信<sup>ノ</sup>を發表してを侮辱<sup>ハシム</sup>した無理解<sup>ハシム</sup>はない。

**BANCO ESPECIE DE YOKOHAMA, LTD.**  
(THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD.)  
Rua da Candelaria, No. 23  
Caixa Postal 380  
Praça da Igreja

OSAKA SHOSEN KAISHA

食糧店  
にあり  
Rua Senador Santos, 53  
Teleph. ....  
SANTOS

大阪商船會社 漢船發着廣告

北米、ナマ經由  
横濱、神戸行き リオ港發九月四日

サン・トス發九月一日

日本ヨリ リオ港着九月三日

サン・トス着九月五日

サントス、リオより横濱の  
船客運賃一等三コント  
尙詳細な左記へ御問合せ被度候

S. Paulo :— Santos :— Rua José Bonifácio, 17  
Rua 15 do Novembro, 167